

宮城・円福寺遺跡 えんぷくじ

- 1 所在地 宮城県宮城郡松島町松島字町内
- 2 調査期間 一九九一年(平3)三月～四月、五月～七月
- 3 発掘機関 宮城県文化財保護課・瑞巖寺
- 4 調査担当者 後藤勝彦・新野一浩
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 一三世紀中頃～一四世紀末
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(松島)

円福寺遺跡は、塩釜市街地の北東約7km、松島湾の北西部に位置する。遺跡の立地は、北西から南東に向かって伸びる谷の開口部にあたる海浜低地で、標高4m前後を測る。

円福寺遺跡の調査は、瑞巖寺の地下貯水槽改修工事と宝物館新館建設に伴う事前調査で、宮城県文化財保護課の指導を受け、瑞巖寺が実施したものである。非常に限られた範囲の調査で

あったが、中世に存在した円福寺に関わると思われる基壇などの遺構と多量の遺物が発見された。しかし、遺構の年代を示す資料がない。円福寺に関する文献も少ないため、詳細な年代は判然としないが、一三世紀中頃から一四世紀末と思われる。

遺物は整理用コンテナに約一〇〇箱ほどである。瓦が最も多く、次いで国産陶器(瀬戸・常滑・地元産)・木製品、また若干の輸入青磁片も出土した。瓦や陶器は火災後に行なわれた整地の土に大量に含まれていたが、木製品は自然堆積層中にあり、保存状態はきわめてよい。ほとんどが箸・木匙・曲物・折敷・漆器などの日用品で、珠数玉・舟形などの信仰に関わるものは非常に少ない。

木簡は一点のみ出土。遺構に伴う状況ではなく、大量の木製品を含む自然堆積層から、箸・櫛・漆器・木匙・下駄・削屑等とともに出土した。



8 木簡の釈文・内容

(1) □□□

(70)×23×3 081

木簡は上下を欠失する。文字はにじんだようにみえ、赤外線をあててみたものの判読はできなかった。

9 関係文献

瑞巖寺博物館『円福寺遺跡事前発掘調査報告書』(一九九二年)

(新野一浩)

木簡研究 第二〇号

巻頭言—木簡学会の十年—

原 秀三郎

一九八七年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 興福寺勅使坊門跡下層 藤原京跡 藤原京左京九条三坊 紀寺跡 長岡宮跡 長岡宮・京跡 鳥羽離宮跡 千代川遺跡 矢谷遺跡 大坂城跡(1) 大坂城跡(2) 梶原南遺跡 宅原遺跡(豊浦地区) 長田神社境内遺跡 書写坂本城跡 砂入遺跡 杉垣内遺跡 清洲城下町遺跡 岩倉城遺跡 勝川遺跡 刈安賀遺跡 山中遺跡 小町一丁目一〇七番地点遺跡 宮町遺跡 川田川原田遺跡 光相寺遺跡 妙楽寺遺跡 釜淵遺跡 南古館遺跡 大楠遺跡 手取清水遺跡 角谷遺跡 横江莊遺跡 白坏遺跡 草戸千軒町遺跡 延行条里遺跡 長門国分寺跡 安養寺遺跡 金光寺跡推定地 博多遺跡群(築港線関係第三次調査) 吉野ヶ里遺跡群 本告牟田遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一〇)

平城宮跡(第四四次)

中世木簡の一形態—山札・茅札についての覚書—

石井 進

雲夢睡虎地秦墓竹簡「日書」より見た法と習俗

工藤元男

木簡の保存処理

沢田正昭

彙報

『木簡研究』六〜一〇号総目次

研究集会報告一覧

木簡出土遺跡報告書等目録

木簡出土遺跡一覧

頒価 三八〇〇円 寺崎保広 寺崎保広 寺崎保広 千五〇〇円